

2013 Mongol Ex.

Team B



目次

団長挨拶.....	2
Ex. 概要	
開催の目的・協力者・場所.....	3
参加者リスト.....	4
日程および構成.....	5
事前勉強会報告.....	6～7
日別活動報告.....	8～27
フリーテーマエッセイ.....	28～37
必要な持ち物リスト.....	38
次世代へのアドバイス.....	39～40
モンゴルで食べたもの紹介.....	41～43
編集後記.....	44

団長挨拶

モンゴル

それは、様々な文化をありのままに受け入れている国
それは、多くの人と多くの車で活気ある首都の国
それは、見渡す限り草原に包まれた国
それは、国を越え、私たちをあつという間に友人にしれくれた、
大事な人たちが住む国

物に溢れた日本を離れ、ただただ広がる自然の中で過ごした1週間、
ああ、生きてるなあ実感しました。
全人口の半分が集中する首都ウランバートル市での3日間のホームステイ、
現代モンゴル生活は日本と似てるようでもっと元気に囲まれていたように思います。

このEx.は自分の働きかけ次第で大きく変わります。
自分が話したいなら話せばいい。走りたいなら走ればいい。笑いたければ笑えばいい。
その1つ1つを、日本人とかモンゴル人とか日本語とかモンゴル語とか、関係なく全力で行った先に、あなたの第二の故郷が生まれるでしょう。

これからもこの素晴らしいプログラムが続いていくことを願い、
そして何より、

共に過ごしたメンバーにありったけの笑顔と感謝を込めて

2013.9

モンゴル Ex、B チーム

団長 山内菜摘

＊Ex.概要

・開催の目的

日常から遠くはなれた何もない草原や、首都・ウランバートルという独自の環境におけるモンゴル人学生との共同生活や国際交流を通して、国際的な相互理解を推進する。相互理解を深めることで、国を越えてお互いにより深い絆を築く。一人一人が幅広い視野をもって、国際的相互理解を深め、I.S.A.の理念である世界平和に貢献努める。

・協力団体・協力者

Bold Javkhlantugs さん（モンゴルの日本語教師）

University humanities の生徒と卒業生

・開催地

モンゴル国の草原とウランバートル市内

・参加者名簿

	名前	支部	大学	学年	役職
1	豊嶋 弘樹	東京	立教	4	パスポート、チケット
2	山内 菜摘	神戸	関西学院	4	団長
3	池田 忠	神戸	関西学院	4	副団長、国渉
4	川崎 康博	神戸	関西学院	4	広報
5	久保 さゆり	神戸	甲南	4	文化紹介
6	飼谷 真里	神戸	甲南	2	勉強会
7	神田 桃子	神戸	神戸	1	財務
8	古家 佳奈	岡山	ノートルダム清心女子	4	勉強会、文化紹介
9	中村 有沙	岡山	ノートルダム清心女子	4	報告書、ML
10	佐々木 充	九州	北九州市立	4	報告書

あだ名

名前	あだ名
豊嶋 弘樹	とよしー
山内 菜摘	ちゃん
池田 忠	いけちゅー
川崎 康博	やす
久保 さゆり	さーちゃ
飼谷 真里	まりねえ
神田 桃子	もも
古家 佳奈	かなふ
中村 有沙	ありりん
佐々木 充	みつる

・日程および構成

日付	場所	宿泊先	内容
8月22日	ウランバートル市内	草原ーゲル	遊牧民生活体験
	→草原		日本の文化紹介(すいか割り)
			モンゴル人メンバーとの顔合わせ
			キャンプファイヤー
8月23日	草原→テレルジ→	草原ーゲル	かめ岩テレルジ国立公園
	トウル川→草原		テレルジ国立公園
			トウル川旅行
			キャンプファイヤー
8月24日	草原	草原ーゲル	遊牧民生活体験
			乗馬
			スイーツパーティー
8月25日	草原	草原ーゲル	遊牧民生活体験
			日本の文化紹介(踊り)
			シャワー
8月26日	草原	草原ーゲル	遊牧民生活体験
			キャンプファイヤー
8月27日	草原	草原ーゲル	遊牧民生活体験
			日本の文化紹介(書道)
8月28日	草原	草原ーゲル	遊牧民生活体験
			日本の文化紹介(流しそうめん)
			花火
8月29日	草原→ウランバートル市	ホームステイ	自由行動(観光・ショッピングなど)
8月30日	ウランバートル市	ホームステイ	自由行動(観光・ショッピングなど)
8月31日	ウランバートル市	ホームステイ	自由行動(観光・ショッピングなど)
			民族舞踊コンサート
			さよならパーティー(カラオケ)
9月1日	ウランバートル市ー空港		帰国

・事前勉強会報告

日程 7月14日(日)～7月15日(日)

会場 平生セミナーハウス

目的 日本人メンバーと親睦を深める
モンゴルに対する理解を深める
プログラム期間に行う企画の準備

内容 ・自己紹介
・モンゴルについて勉強
→1人15分程度で与えられたテーマについてプレゼンテーション。
・文化紹介(踊り)の練習
・スイーツパーティーの準備(買い出し)
・映画鑑賞(モンゴルの草原が舞台となった映画)



7月14日 勉強会1日目タイムテーブル

10:00～	各自勉強してきたことを発表(15分×2人)
10:30～10:50	休憩
10:50～11:20	発表(15分×2人)
11:20～11:40	休憩
11:40～12:10	発表(15分×2人)
12:10～14:00	お昼ごはん・休憩
14:00～14:30	諸連絡
14:30～15:00	発表(15分×2人)
15:00～15:20	休憩
15:20～15:50	発表(15分×2人)
15:50～16:20	休憩
16:30～	文化紹介の練習
19:00～	晩御飯～就寝

7月15日 勉強会2日目タイムテーブル

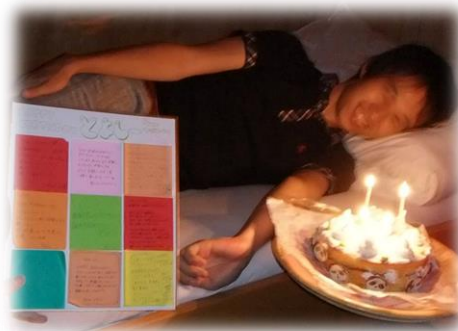
9:00～10:30	文化紹介の練習
10:30～11:00	休憩
11:00～12:00	文化紹介など
12:00～14:00	お昼ごはん・休憩
14:00～16:00	映画鑑賞
16:00～17:00	諸連絡
17:00	平尾セミナーチェックアウト

1日目の夜に

7月末に誕生日をむかえるとよしーと

6月に誕生日だったいけちゅーを

サプライズでお祝いしました☆



日別活動報告

8/18 出国
8/19 ビフォー@北京
8/20～21 国際列車
8/21 前入り@ウランバートル

8/22～9/1 モンゴル Ex.

9/2～9/3 アフター@北京
9/4 帰国

8月18日 出国 担当：さーちゃ

モンゴル Ex.B チームの Before ではチーム 10 人中 9 人で北京へ行った。その内の関西組 8 人は同じ飛行機に乗り北京に向け出発した。約 3 時間かけて北京の空港に到着。北京と日本の時差は約 1 時間、同じアジアということだけあってそれほど時差はない。そして、やはり日本と比べて空気は汚い。と感じた。

北京空港に到着後、電車での移動。ホテルへ向かうことに。しかし、北京の地下鉄は、終電が早く、ホテルまでの電車がなくなった。そこで、地上に上がることになったが、そこでは中国人に集られ恐怖を感じた。しかし、それはタクシーの運転手であった。そしてその人たちと値段の交渉が始まった。私は見ているだけであったが、言語が通じない中での交渉は紙とペンを使ったものであった。漢字を書いての交渉。そこで、中国では、英語も日本語もなかなか通じないということを思い知ることとなる。これからの中国での旅に少し不安を抱いた。

タクシーの運転手に交渉後、タクシーは正規のものではなく、いくらか損をすることになったがタクシーに乗り、無事ホテルに到着。そこで、関東組と合流。ホテルでは、シャワー・ベッドもあり、快適に過ごせる環境が整っていた。この日は、各自の部屋で次の日に備えて就寝した。



8月19日 ビフォー@北京 担当：ちゃん

北京のすさまじさにやられ、集合予定時間から大幅に遅れて活動開始。某有名ファーストフード店での朝食は豆乳ドリンクとやる気のない接客にやられた。この日は明日の国際列車のチケット引き換えだけが必須事項だったので、日本のニュースでも一時流行った石景山遊園地に行くことになった。初めての中国の地下鉄移動でこのチームの流行語が生まれることとなる。さて、チケットを無事取り終えて(対応してくれた社員の方はとても友好的だった)、いざ遊園地へ！駅から少し歩くとすぐ先のないジェットコースターが見え、一気に盛り上がる。入園口までの道では、帽子のように被る形の傘が売っていて最初は爆笑だったが、ここに限らず街中でもたまに見かけたので中国人にとっては定番の形らしい。衝撃。露店でチャーハンやミッ○ーの飴などの買物とちょっとした交流を楽しみ、さあ入園！とりあえずキャラクター像があったら写真を撮るという騒ぎっぷり。混雑もなく程よい人口のもと、遊園地探検が始まる。ただ、暑い。あの変わった傘がほしくなるほどこの日は暑かった。ざっと周って乗り物に乗ろうとしたら、行列ができてるわけでもないのになぜか1時間くらい待たされたのがいい休憩だった。そこからはお化け屋敷でお化け写真撮りまくったり、ジェットコースターで違う意味で怖かったり、像を使って撮影大会したりとほどほどに満喫して退園。帰りも飴を買った売店に寄って、水やらアイスやら集合写真やらこの店員さんにはお世話になりました。暑さにやられたのでお土産街に移動してカフェで一段落し、Wi-Fiのありがたみを満喫。そしてガイドブックに載っていた中華料理店へ移動中にも、閉店前でも客を追い返す商売のへの意欲の低さに直面した。中華は日本に比べてやはりリーズナブルでとてもおいしかった。疲れも相まってみんなのテンションも高まっていたのでとても楽しい時間だった。その後は地下鉄ではぐれるという事件。ホテル帰ってきちんと反省会して、あのチームが誕生した。あとは部屋で軽く喋ったり洗濯したりと各々自由に過ごし、明日の6時20分集合に備えて就寝した。



8/20～21 国際列車 担当：いけちゅー

北京駅に出発時刻より早く到着し、朝食を各自済ませた。

【国際列車について】

列車に乗り込んだが、列車の外装・内装は"世界の車窓から"を彷彿とさせる。僕らが乗車した二等客室は一部屋 4 ベッドと少し窮屈だが、列車の旅としては申し分ない。ちなみに一等客室はウッド調で座席はペルシャ絨毯のような柄でコンセント付きだ。食堂車ではおいしい中華料理を食べる事が出来、値段はさほど高くない。客層はほとんどがツーリストでモスクワに向かう欧米系の人々がほとんどを占めている。年齢層は同じ学生から老後のバカンスを楽しむ夫婦まで様々だ。

北京 - ウランバートル間を乗車していたわけだが、列車内はまさしく **international** でメンバーは思い思いに他の乗客達との交流を楽しんだ。あるノルウェー人の乗客は僕と豊嶋に日本の新幹線はクールだと言ったが、僕たちはゆっくりと時間をかけて進む寝台列車もクールだと答えた。列車から見る景色は中国とモンゴルでは様変わりし、地方か都市部かでも違いがありその変化を楽しめるのが国際列車の醍醐味である。出発した頃には中国式の家屋や木々豊かな山々や漢字の標識が車窓には写っているが、到着するころになれば、ゲルや無限に広がる草原そこで戯れる馬や羊、キリル文字の標識が車窓を写す。

中でも食堂車から見た地平線の日暮れは最高だった。

途中国境エレンホトで 3 時間ほど停車する。ここはまだ中国側で乗客は列車に乗り込んで来た中国側の入国審査官にパスポートを預けたまま一度列車の外に出され、ホーム向かいの建物に閉じ込められるような形で列車は何処かに行ってしまうが帰ってくるので心配はない。国の体制上、監視の厳しい中国ならではの事情なのかもしれない。

モンゴルに入るとまたモンゴル側の入国審査官が列車に乗り込んできてパスポートの提示を要求されるが、雰囲気は中国側の時と違い和やかである。

列車はまた動きだし、外の風景は変わって行き、モンゴルに向かうにつれて内陸性の気候になり、夜は寒くなってくる。

メンバーは人狼ゲームに興じたり、おしゃべりしたり、窓から風を感じながら外の風景を、楽しんだりしていた。夜、寝台でぐっすり眠る事ができた。



翌日、メンバーたちはモンゴルの自然に感動し、カメラにおさめている間にお昼過ぎウランバートルに到着した。

他の乗客との交流やメンバーとのゲームやおしゃべりなど濃くかけがえのない時間を過ごすことができた。

8/21 前入り@ウランバートル 担当：みつる

AM3:30、北京のホテルの猛反発ベットで目を覚ます。丸一日の初海外一人旅もうすぐ終わる！皆に会える！！そう思うと鬼のように早い起床時間も苦ではなかった。ホテルを出発してから7時間後、遂にウランバートル空港に到着。ジャギさん始めモンゴル人8名の持つ「モンゴル Ex.」のプラカードを見たときは本気で泣くかと思った。その後、他の日本人メンバーと合流。国際列車は相当楽しかったらしい。うざ。それからは予定していたゲストハウスではなく、日本語ペラペラのフィガの家に。間取りはなんと驚きの4LDK。水周りに若干(?)の問題はあったものの、比較的快適にすごせた。夜はジャギさん、フィガを合わせた10人ほどでちょっと高級なBARに繰り出した。そこでジャギさんの友人のフランさんと相席することに。なったんですけど、いやもうあれは完璧に恋でしたね、はい。めちゃくちゃキレイなんですよフランさん。日本語話せるし。なんで既婚で一児の母なのか。世の中の非情さはユーラシア大陸に来てても変わんねーのかよ畜生！とゆーわけで明日はいよいよ草原。

8/22 Ex.1 日目 担当：やす

朝、プログラムに向けてワクワクする期待感と寝袋の隙間から流れ込む冷たい空気で目が覚めた。午前7時30分。少し眠たい目をこすりながら体を起こす。眠気が取れ、周囲の風景が目に入り、昨晚の事を思い出した。そう、前夜はモンゴル人のフィガの家に全員で宿泊したのだった。今日からいよいよプログラムが始まる。

起床後に草原へ向かうための身仕度を進める。各自の荷物の整理が終わり、最後にお世話になったフィガの家の掃除を済ませる。掃除が終わる頃、迎えのバスが到着。バスにはすでにモンゴル人メンバーが待機していた。これから10日間のプログラムを共にする。お互いに少し緊張があり、自己紹介もぎこちない。そんな中、各自荷物を詰め込み、いざ、草原へ。大都市ウランバートルを離れ、窓の外の風景は一気に辺り一面緑色の草原へ。次第に道路も整備されていない荒々しい道となり、バスは大きく車体を揺らしながら草原の中を突き進む。

2時間ほど走ると、真っ青な空と緑の草原の間に白いものが浮かんでいる。私達が滞在するゲルだ。バスを降り、草原の空気を思い切り吸い込む。とても開放的で清々しい気持ちになった。しばらくすると昼食の時間になった。この草原に滞在する期間中、私達の食事を作ってくれるのは、シェフのナラさん。なんと日本食レストランで勤務していた経歴を持つ。この日の昼食は肉じゃがのようなものにペンネパスタが入ったものだった。味は抜群。その後、メンバー全員がナラさんが作る料理の虜になることを予兆していた。

昼食が終わると、モンゴル人メンバーと一緒に近くの山に登った。見かけよりも大きく、大きな石がゴロゴロと転がっているため、予想以上に登頂は厳しいものだった。しかし、山頂からの眺めはその疲れを吹き飛ばすほどで、心地よい風が吹いている。山登りの後は、皆でカードゲームをしたり、日本から持ってきた遊び道具も取り出し、草原の中で楽しい時間を過ごした。ゲームを通じて徐々に緊張がほぐれてきた。

いつの間にか陽は傾き、夕暮れを迎えていた。時間は午後7時。夕食を済ませ、夕日を見るためにもう一度山頂へ。赤く強い光を放ちながら太陽が山の向こう側へ沈んでいく。東の山からは満月が顔を覗かせていた。

ゲルに戻ると、キャンプファイヤーの準備が整っていた。草原は太陽の光を失うと急激に冷え込む。皆、上着を着て燃え上がる火を取り囲む。モンゴル人は寒い気候を乗り越えるためにアルコール度数の高いウォッカを飲む。私達もコップに注がれたウォッカをグイッと一口。一気に体が温まる。ウォッカを片手に、皆で火を囲み、音楽に合わせてダンスパーティ。モンゴルでは、若い人を中心にストリートダンスが人気らしく、モンゴル人メンバーは皆クールにダンスを披露してくれた。日本人も慣れないながらも、この時間を大いに楽しんだ。

気がつくともう深夜になっていた。キャンプファイヤーも終わり、残り火を傍らにしばらく夜空を観賞。満天の星空と流れ星がプログラム初日を締めくくった。

8月23日 Ex.2日目 担当：ちゃん

草原で初めて迎える朝。昨日皆で登った山に朝日を見に行ったら、間に合ったような間に合わなかったような。それでも美しいことには変わらない雄大な自然に囲まれての1日の始まり。この日が草原唯一の予定がある日になるとは、この時はまだ知らない。思えば各ゲルで食べたのも、チャーハン付きだったのも、この日だけだった。午前中からバンに乗ってテレルジへ。途中ラクダ・ロバ・驚の見世物とお土産グッズが売っていた休憩地点が少し印象的だった。道と草原しかないあの場所で観光客が賑わっているのはモンゴルならではかもしれない。運転手の巧みな運転さばきで地面のままに揺れながらも無事亀岩に到着。登れると聞き日本人メンバーのみロッククライミングを開始。登れるところまで登って記念撮影。すると奥にはタイシュウが見つけてくれたお供え場のようなものがあり、ちょっとした探検もできた。降りるとイギリス人のジェイミーさんとの出会い。日本語の先生をしていたという親近感もありしばらくともに観光することに。手作りホーショルを食べ、チベット仏教徒の建てたお寺へ訪問。ここもほとんど登山だった。1度に4人しか渡れない吊り橋などハードなお寺である。本堂らしき建物をぐるりと囲う、あの回すやつ。全員で回しながら周っていたのはシュールな光景だった。さあ帰路。片道2時間ほどはかかるので今回はさんでくれた休憩地は川。石を水面にはじかせる遊びを全員でやる。川に入ってみると気持ちいいけどめっちゃめっちゃ冷たかった。そしてジャギさんを筆頭に始まる水かけ大会。バスの中だろうがお構いなしにかけ合い、全員でびしょ濡れになる姿は解放感に包まれて爽快だった。そしてバスで再び帰路へ。後方で行われていたゲームはなぞであるw 途中もう1度だけ何もなかったところで停まったが、それがトイレ休憩だったというのも草原あるある。あったかい晩御飯を食べたら、キャンプファイヤー2日目突入！ただ、この日を通してモンゴル人メンバーと確実に距離が近くなったと思う。ダンスな夜も初日よりノリノリで、晩酌もありながら最後はみんな熟睡だった。



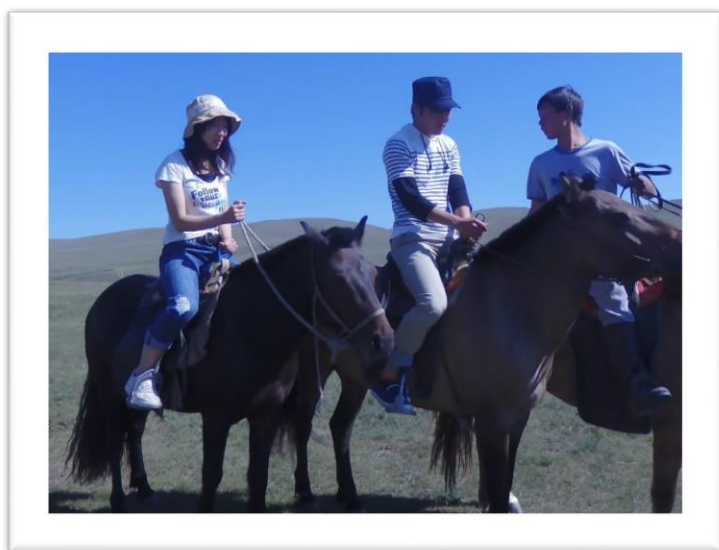
8月24日 Ex.3日目 担当：さーちゃ

今日は晴れていたのので外で朝食をとった。外での朝食は草原の中でのものでモンゴルでしか味わうことのできない新鮮なものであった。モンゴルでの朝食の内容は、パン・目玉焼き・ウインナー・ブルーベリージャム・バターである。昨日と朝食の内容は一緒であった。しかし、飽きずに美味しく頂くことができた。

そして、今日は朝から馬に乗った。私自身初めての乗馬体験。乗り方を教えてくれたのは、モンゴル人の小学生くらいの男の子。話かけてみようと思い「Can you speak English?」と質問してみたが、反応なし。そこで言葉の壁を感じる。乗馬が終わった後、覚えたモンゴル語で「バイラルラー（ありがとう）」と話しかけると笑顔でかえしてくれた。人生初めての乗馬は、足が筋肉痛になった。しかし、草原の景色を十分堪能することができた。

その後は、特に予定もなくゲルの中でモンゴル人のおゆか・うぬしかと話をしながらごろごろしていた。

夜は、スイーツパーティーを行った。日本のお菓子をモンゴル人に紹介した。日本での辛いお菓子より、甘いお菓子の方がモンゴル人には人気であった。日本のお菓子を紹介することが十分にできた。



8月25日 Ex.4日目 担当：ありりん

朝の6時半に起床。起きてすぐにゲルから離れたところに移動し、日本人は文化紹介のダンスの早朝練習。この日はダンスを披露する日だったのに、朝の時点で半分以上踊れない状態だった。でも、まりねえをはじめ、みんなに教えてもらったおかげでなんとか一通り覚えることができた。10時過ぎまで練習していたと思う。練習を終えてゲルのほうに戻ると、モンゴル人メンバーに「11時からツーリストキャンプにシャワー浴びに行くよ」と言われた。しかし、このときすでに11時だった(笑) もう11時だったけど、朝ごはんを食べた。モンゴルでいると朝ごはんが11時なんて普通だった。朝ごはんを食べてからツーリストキャンプへ向かう。ゲルから20分くらい歩いたところだったと思う。ツーリストキャンプでシャワーを浴びた。最後にシャワーを浴びたのは8月21日だったから、久しぶりのシャワーだった。この日は、1週間にわたる草原での生活で唯一シャワーを浴びることができる日だった。1人15分という制限時間を気にしながら、みんな体をさっぱりさせた。シャワーを浴びて外に戻ったときは本当に気持ちよかった。このときフランさんの子どもと旦那さんが来ていた。子どもがかわいいのなんの。みんなで可愛い可愛いと言っていた。それからレストランや売店のあるところに行って、昼間からビールを飲んだ。しばらく休んでゲルに戻った。お昼ご飯ができていた。カレーだった。晴れた日の草原で食べるカレーは最高に美味しかった。食べ終わってからは、同じゲルのメンバーで食器を片づけた。草原にいるときは、毎日ゲルのメンバーごとに日替わりの当番制で食器の片づけをした。この日は私たちのゲルの人が当番だった。片づけを終えて、ゲルでモンゴル人学生のおゆかとウヌシカに呼ばれて、さーちゃんと4人でおしゃべり。しばらくして文化紹介が始まる。まずは日本人男子4人でソーラン節を踊った。続いて日本人女子もモーニング娘。の恋愛レボリューション21を踊った。朝の練習もむなしく、本番になると結構振りを忘れてしまった…。最後はモンゴル人メンバーも交えて盆踊り。盛り上がった。文化紹介のあとも、みんなキャッチボールやたこあげなんかをして遊んでいた。晩ご飯は肉とマカロニの入ったスープだった。これも美味しかった。当番だったので食器の片づけをして、男子ゲルでモンゴル人メンバーを含めてゲームをした。ゲームというのは、たけのこニョッキやリズム4(〇〇から始まるリズムにあわせて…♪)や、モンゴルのゲームだ。罰ゲームもあった。毎日罰ゲームありのゲームをやっていたので、日本人メンバーもだんだん罰ゲームに慣れてくる。慣れて怖い。それから外に出て、ちゃん、いけちゅー、みつる、やすくんとシートに寝転がって夜空を見ていた。草原で見る夜空は日本では見たことないくらい、たくさんの星が出ていた。そして私は、この日に生まれて初めて流れ星を見ることができた^^興奮して願いごとを言うにいたらなかったけど。1時半くらいに男子3人はゲルに戻っていき、私とちゃんは引き続き星を見ていた。気づいたら2人して寝てしまっていた。夜は真冬並みに寒いにも関わらず、私とちゃんは外で2時間くらい寝た。3時半くらいに目が覚めてゲルに戻った。

8月26日 Ex.5日目 担当：とよしー

そういえば何時に起きたんだっけ？今はだいたい昼くらいだろうか。草原滞在中、時計を一度も見ずに一日を終えることもざらだった。日本ではまずできない。どこに行っても時計はあるし、何をするにも時刻に沿ってそれが進められる。ここにはゲルと一面に広がる草原しかない。時間を気にする必要がない。この日も予定がなかった。皆自由気ままに一日を過ごす。今日はゆっくりしたかったので、私は読書をしていた。そして眠くなったら寝ていた。それでほぼ一日を終えた。「モンゴルまで来てそれ！？」と行ったことない人に言われそうだが、これがまた至福の時なのだ。日本で同じことをしたら、「時間を無駄にしてしまった」とひどく後悔する。だからモンゴルのそれとは感情面で大きく異なる。ある意味、そんなガラガラこそモンゴルでしかできないことだと思う。

8月27日 Ex.6日目 担当：まりねえ

朝の10時頃に目が覚めた。起きると雨が降っていた。昨日の夜、わたしはビールやらウオッカやらを飲んですごくふわふわした気分で酔っ払って張り切って踊っていたので、ちょっと遅めの朝ごはんのときに体調を心配してもらった。わたしは元気だったので、草原に来て少しお酒に強くなった気がする。朝ごはんの後、この日の食後のお皿洗い担当が私たちのゲルだったので、雨が降るなかお皿を洗った。寒くてとても辛かったけど、とよしーさんが傘をさしてくださっていて、あまり濡れずにすんだ。ありがとうございます。外で遊ぶことができないので、男子ゲルでカードゲームをした。カードゲームの他にも、リズム4やたけのこによっききもした。なぜだかよくわからないけど、その罰ゲームの流れで男子メンバーに女子メンバーがお化粧をしようということになった。わたしはオユカと、とよしーさんに化粧をすることになって、自分の汗ふきシートやら、化粧ポーチやらを準備したけど、容赦なく使われていくファンデーションをみて、持ってくるんじゃないかと少し、うーん、けっこう後悔した。オユカはアイラインに命を懸けていて、すごく熱心にずーっとまぶたを黒くしていた。周りを見渡すと、みなさんいっしょうけんめいお化粧されてて、すごくシュールでカオスだったのでおもしろかった。せっかくだから服も女の子になるということで、女子メンバーの服をかりてみなさん本格的に女の子



になった。ジャギさんがいちばんセクシーで、とよしーさんがいちばん可愛かった。みつるさんは美脚だった。ほんとにカオスな時間だった。

そのあと、文化紹介で準備していた書道をした。書道は予想以上に盛り上がった。ウヌシカが、何か言葉を言ってみて、といってくれたので、うみとかかわとか答えてみると漢字で文字を書き始めた。漢字が書けることにびっくりした。半紙にどんどん増えていく漢字をみて、心からすごいな—と思った。この漢字はこんな風



に書くんだよと教えてあげると、いっしょうけんめいまねしてかいてくれてとっても嬉しくなった。オシンが、私♡まりと半紙にかいてくれて、それもとっても嬉しかった。オシンは日本人メンバー全員にかいてくれていた。オシンは日本語を学んでいる学生ではないのに、いっしょうけんめい日本語を学ぼうとしてくれているのが伝わってきて、ほんとうに嬉しかった。オユカも、親友、愛してる—って書いてある半紙をくれて、それもとっても嬉しかった。大切にします。日本人メンバーそれぞれ自分の好きな字を書こうということになって、わたしは天真爛漫と書いた。生まれつきの素直な心そのままで、明るく純真で無邪気なさま。わたしは、仲良い友達からまりちゃんは

がんこやから素直になりなさいって言われてて、もうずーっと言われているのでモンゴル Ex.をきっかけに素直になろうと思って書いた。ちゃんさんの十人十色はBチームにぴったりの言葉のチョイスでさすがだな—と思った。みなさんとっても字が綺麗だった。ボマが一生愛って書いていてキュートだった。おのおのが書いた字や言葉をみていて、やっぱり字はその人があらわれるのかな—と思った。あっという間に時間がすぎて、おいしいよごはんを食べて、お皿洗いをした後にマンダがチュッパチャップスをくれて、あめちゃんを食べながらちゃんさんとももぴとゲルで語り合った。素敵な一日でした。

8月28日 Ex.7日目 担当：ありりん

この日の朝も早起き。私は草原にいるときはだいたい5時すぎに起きていた。なぜか朝早くに目が覚めていた。誰も起きてないし、することもないので二度寝をしようと試みるけど、寒すぎて二度寝すらできなかった。モンゴルの朝はとにかく寒かった。身支度を整えていくうちにみんながちらほら起きてくる。朝は特にこれといって何もしていない。この日は、前日に文化紹介で書道をしたときに書いた作品を持って写真を撮ろうということになっていた。そのあとはモンゴル人メンバーに、別れるときに渡す予定の長い半紙にメッセージを書いていた。ある1つのゲルで日本人メンバーはメッセージを書いていたのだが、モンゴル人メンバーがちょいちょいゲルに入ってきていたので、もしかしたらバレていたのかもしれない。笑 それと同時進行で流しそうめんのための準備をしていた。準備も整ってきて、



いざ流しそうめん。前日までは天気がよくなかったのですが、流しそうめんをせずに草原を去ることになるのではないかと心配していたが、何とかできそうだった。足元悪かったけどw 牛乳パックをつなげて、そうめんが流れる部分を作った手作り感あふれる流しそうめん。これが楽しかった。人生で初めての流しそうめんを、まさかモンゴルでするとは。モンゴル人メンバーも楽しんでいただけたようだ。晩ごは

んは鍋だった。草原での最後の晚餐。鶏肉の入った鍋だった。これが絶品だった。あまりにも美味しかったのでおかわりをいただいた。2杯目に、ハエが2体同時にダイブしてきて萎えた。だがしかし、ハエを取り除いて食べた。草原では、食べ物にハエがとまることなんてよくある話だ。いちいち気にしているときりがない。草原で最後の晚餐は、1つのゲルに日本人メンバーもモンゴル人メンバーも全員集合して食べた。心も体も温まった。夜は花火をした。しかし、私はゲルで荷物をまとめる作業をずっとしていたので、花火はほとんどしなかった。荷物をまとめ終わって草原に行くと、花火はほぼ終わっていた。まあ、ゲルの中で音声のみで花火を楽しむことはできた。そのあとはみんなそれ



ぞれゲルに戻って寝たり、私たちのゲルに集まってゲームをしたりしていた。ゲームの内容はいつもどおり、リズム4やたけのこニョッキキキなどだ。当然罰ゲームもあった。この日の罰ゲームが1番ひどかった。笑 まあ、ここはモンゴルだと割り切って楽しんだ。しばらくして寝る人は寝て、私を含む日本人メンバー数人は外に出た。この日の夜空は草原での生活の中で1番たくさん星が出ていた。本当にプラネタリウムにいるみたいだった。音楽を聴きながら寝転がって、草原での生活の思い出を語りながら空を眺めていた。流れ星もたくさん見た。しばらくして満足したので、ゲルに戻って寝た。草原最後の夜を満点の星空で締めくくれてよかった ^^ *

8月29日 Ex.8日目 担当：いけちゅー

この日は草原最終日。ここまで、日の出を見逃していたが、この日は早朝に起床し、メンバーらとご来光を眺めることができた。ゲルに戻ると各自ウランバートルに向かう荷造りやゲル内部の掃除を済ませ、朝食をとった。その後、日本人メンバーを中心にムービーの素材となる動画を撮影した。

その後、一同はバスに乗り込み、草原を後に・・・しかしここで少しハプニング。前日の大雨の影響で地面がぬかるんでおり、バスが坂を上りきらず苦戦しバスが傾いた場面があった。しかし運転手の再挑戦の結果この難所を乗り切ることができた。

ウランバートルに入ると、車の量が多くなり慢性的な渋滞に引っ掛かりすこし時間を要したが、各自はホームステイ先で降車していった。

僕と川崎はボマの家に訪問した。到着後早速お土産をボマの父に手渡した。“ありがとう”の言葉と共に喜んでくれた。四日ぶりにシャワーを浴びることができ、モンゴルのどんぶりのようなものをごちそうになった。非常においしかった。

夜は他のメンバーと合流し、レストランにて食事をした。ゲルの雰囲気とはまた変わっていたが、皆会話を楽しんでた。その後近くの広場で行われているライブ会場にてライブを楽しんだ。ライブ会場ではモンゴルの若者を中心に盛り上がりしており、歌の歌詞などは到底わからなかったが、雰囲気は十分たのしむことができた。ライブ会場では再三にわたってスリに気を付けるように注意されたが日本人メンバーにモンゴルメンバーが分担して付いてくれていたおかげもあり、トラブルは特になかった。

その後各自ホームステイ先へ帰宅した。

8月29日 Ex.8日目 担当：もも

草原最終日。まさか本当に晴れると思っていなかったのが驚いた。朝5時半すぎ、起きたメンバーで朝日を見るため山登り。沈黙の中急かされるように登りきり、静かに日の出を待つ。最終日に朝日を見ることができ幸せ。

ゲルに戻って身支度と荷造り。朝ごはんを食べてから、写真・ムービーを撮る。もう草原での生活が終わるのかと思うと実感がなかった。やり残したことばかりのような気がして名残惜しかったけれど、ジャギパパに手を振りながら草原に別れを告げた。



ウランバートルに着いて、ナラさん、おしん、ちゃんさんと最初にバスを降りる。ステイ先に着くとすでにボーズが用意されており、軽い昼食をいただいた。シャワーを浴びて、いとこのプチュ、ゲゲと遊んだけれど、この二人むっさかわいい。折り

紙をしたり、モンゴルのゲームを教えてもらったり。その後は5時間ほどお昼寝。夜はブロードウェイレストランに連れて行ってもらった。夕食後、メンバーが集まっているパブに向かい、早くも全員集合で少し不思議な感じだった。近くでイベントをやっているとのことで広場に向かう。ボマが一番楽しそうだった。その後はグループに分かれてタクシーに乗り、ファイガのところに向かった。途中どこに降ろされたのか分からなかったり、ちゃんさんの財布がなくなったり、いろいろカオスだった。結局飲み代を徴収されただけでなんのために一時降りたのかよく分からなかったけれど、またタクシーに乗り込み目的地に到着。前入りで壊れたドアノブは直りきっていなかったし、トイレは水すら流れなかったけれど、みんなでウォッカを飲んで楽しんだ。ピーナッツの真ん中の部分が体に悪いとの迷信をさーちゃんから教えていただき、いけちゅーさんに食べてもらった。体調を崩している人がみられたので、旅の疲れが出てきた頃だったように思う。

8月30日 Ex.9日目 担当：かなふ

朝、フィガの家に泊まった人全員で部屋の掃除をする。昨日から各ホームステイ先での行動となっているので各自ステイ先へ。この日からフィガの親戚が来るためステイ先が変わる、ということ当日知らされる。さーちゃんと急いで荷物をまとめてタイシューの家へ移動して、昼食を作ってもらう。

家でくつろいでいる間、しおりに載せてあったモンゴルの習慣について、ジャギさんから色々教えてもらった。モンゴルでは数字の7が不吉だとされているが、今の若い人はあまり気にしていないなど、今ではあまり気にされなくなっている習慣もあった。ちなみに何故7が不吉とされているのかは、ジャギさんも知らなかった。

一方で、今でもしっかり根付いている習慣もあった。モンゴルでは、左手で物を受け取ると相手に対してとても失礼になる。右手で受け取るのももちろん良いが、両手で受け取るとより相手を敬っていることになって良いとのこと。草原で食事を受け取る時など気を付けた方が良い。また、今年のEx.中に、ホームステイ先の人が用意してくれていた服（パジャマ）を日本人が着ずに寝てしまい、ホームステイ先の人気分を悪くしてしまったことがあったらしい。ホームステイ先の人がきちんと用意して下さったものは、有り難く使わせてもらうのがモンゴルでの礼儀のよう。

夜はスーパーに連れて行ってもらって、必要なものとお土産代わりのお菓子を買った。さーちゃんがアルコール除菌のできるウェットシートを買おうとしたけど売ってなかった。また、モンゴル生産のお菓子はほとんどなく、あってもチョコレートが主。ちなみにモンゴルのスーパーには日本の駐車券のようなシステムがあり、お店から出る際には商品を買ったことを示す為にレシートを表示しなければいけなかった。表示しない場合はお金を取られる。スーパーに連れて行ってもらう際は、レシートを捨てずに持っておいた方が良い。

その後、ジャギさんの洗車に付き合っ、ザイサン・トルゴイに連れて行ってもらって夜景を見た。ウランバートルの夜景はすごく綺麗！その後は国会議事堂に連れて行ってもらった。結構遅い時間だったが、広場では自転車に乗ったりローラーブレードに乗って遊んでいる大人や子どもがたくさんいた。ウランバートルは自転車専用道路がほとんど無いので、普段自転車に乗ることはほぼ無いらしい。

この日はモンゴルの習慣や生活についてよく知れた1日だった。ザイサン・トルゴイで日本の旗を踏みつけている絵があるのは少し驚いたけど、そんな歴史があっても日本を好いてくれるモンゴル人が多いことを嬉しく思った。



8月31日 Ex.10日目 担当：みつる

朝9時、ホテルで目を覚ます。このEx.期間中で最もの心地良い目覚めだった。しかし、約束の10時になってもビルがなかなか来ない。結局来たのは11時前でそれからノミンデパートに向けて出発。デパートに着いて朝飯をとったはいいものの、待てど暮らせど他の組が来ない。ビルの機嫌が徐々に悪くなるのが目に見えてわかった。どうやら彼らは待たすのは得意でも待つのは苦手らしい。1時間半ほどしてようやく合流。ショッピングをしてからホーミーや馬頭琴などのコンサートを見に行った。これはマジで凄かった。ただ全体的に雰囲気眠い。その後、いよいよEx.最後のイベントであるカラオケパーティーへ。ここでなんと日本人男子2名がそれぞれ別のモンゴル人女性と相愛になってしまった。ちなみにBチームの日本人男子は4人しかおらず、私はその2名に含まれないことを述べておく。なんて羨ましいんだ死ねばいい。おれもフランさんとそんな感じになりたかった。この日はホテルではなくタイシュウの家でふて寝。

9月1日 Ex.最終日 担当：かなふ

約10日間あったモンゴルEx.も、今日でついに最終日。朝8時には家を出て、8時半に全員でホテルの前に集合し、バスに乗って空港まで送ってもらった。いつもみんなで歌を歌ったり騒がしかったバスの中も、心なしか少ししんみり。ゲートが開く時間まではみんなで写真を撮ったり話をしたり。最後に日本人メンバーから、モンゴル人メンバー1人1人に習字（モンゴル人メンバーの名前を漢字で書いたものに日本人1人1人がメッセージを書いたもの）をプレゼントした。皆その場で開けて見てくれたり、喜んでくれていたのでとても嬉しかったけど、別れを実感して悲しくなった。

私の中で、別れ際になると日本人はとても情緒深いけれど、外国ではそうでもないイメージがあったので、モンゴルでも結構あっさりとした別れになってしまうのかなと思っていたが、泣いて別れを惜しんでくれるモンゴル人メンバーもいたし、みんな私たちが見えなくなるまで見送ってくれていたのだから、本当に嬉しかった。こういった面もまた、日本人とモンゴル人の似通ったところなのかな、と思った。

ゲートを通った後は、朝食を食べていない人が多かったので空港にあるカフェで食事をし、残りの時間でお土産を買った。空港でも十分お土産は買える。モンゴルの空港で働く人はとても親しみやすく、好印象だった。

最終日はちょうど学校が始まる日だったため、会えなかったモンゴル人メンバーもいて少し残念だったが、最後までモンゴルの人たちの温かさや優しさに触れることができた。帰りの飛行機では空から草原やモンゴルの街を見て、今日まで過ごしてきたことを振り返りながら、モンゴル人日本人含め、このメンバーと一緒にモンゴルEx.に参加できて本当に良かったと心から思えた。ここで築けた繋がりをこれからも大切にしていきたい。

アフター@ゴビ砂漠 担当：もも

南ゴビにてモルツォグ砂丘、バヤンザク等を堪能。なかなかリッチな旅だった。

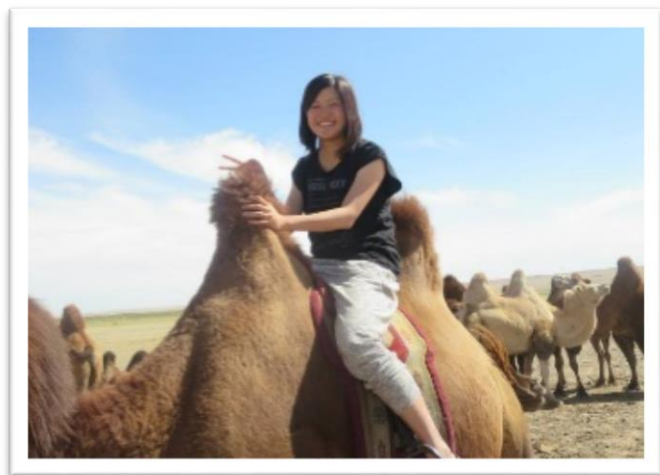
朝 5 時半頃、約 30 分遅れの迎えが到着し、空港へ向かう。ホットチョコレートをおごってもらい説明を受けて、いざダランザドガドへ。到着後無事ドライバーさんと合流し、車に乗り込んでからはただひたすら果てしなく続く地平線を走っていった。

9 月に入ると観光客が減るらしく、あまり人は見かけなかった。宿泊先ではシャワーを浴びることができ、微量ではあったけれどお湯も出た。食事も豪華で、ゲルは鍵付き、ダブルベッド。トイレもきれいで、日本を出てから一番整備されたところだったように思う。

夜 3 時頃に目が覚め、外に出てみるときれいに星が見えた。少し草原を思い出し、もう戻らないあの時間を恋しく思った。草原にいた頃は、ベッドがなくても、トイレがなくても、間違いなく幸せな時間だったと、後になって気がついた。鞆の中にちゃんさんからの飴の餞別を見つけたこともあり、余計に恋しかった。

翌朝、6 時半頃に朝食をとり、バス乗り場へと向かってドライバーさんと別れた。バスは 40 人弱乗れる程度の大きさで、ほとんどがモンゴル人。隣のおばあさんが何かと世話をやいてくれた。お昼にボーズをおごってくれたり、時々ナッツをくれたり。言葉は何を言っているのかわからないけれど、モンゴル人の優しさに触れた時間だった。激しく揺られながら轍道を走ることおよそ 12 時間。ウランバートルに到着。各自流れ解散みたいな形でだんだん人数が減ってきたときは少し焦ったし、無事見つけたツアー会社の人たちが酔っ払った男性にしつこく絡まれていたときはかなり緊張したけれど、何事もなくナラさんたちの元へ帰ることができた。

アフターに関してはなかなかツアー先が決定せずにとくさんの方にご迷惑をおかけしました。ひとりになってわかったことや感じたことがたくさんあり、貴重な経験ができたと思います。わがまを聞き入れてくださったジャギさん、ステイ先のナラさん、おしんたち、B チームのみなさん全員に感謝を込めて。本当にありがとうございました。



9月2日 アフター@北京 担当：まりねえ

今日は、万里の長城へ行く予定だったが、体調がよくない人がたくさんいて明日にしようということになりゆっくりすることになった。わたしは昨日のばんごはんで食べたマーボー豆腐の香辛料が胃にダメージをくらわせていて、夜中ちょくちょく目が覚めていたので、お昼まで寝ていた。胃が痛かったはずなのに起きるとおなかが減っていた。故宮に行くことになり、途中の屋台でにらまんを買った。ほんとににらしかはいつてなかったけどおいしく感じていた。この時までは、地下鉄に乗って故宮につくと、毛沢東の肖像画が掲げられていて、ああ！中国だなと感じた。ガイドブックで、故宮のことがことこまかく書かれていて、写真もすごく素敵で期待していったのに午門までしか行けず、ショックだった。ざんねんむねん。代わりにその近くにある中山公園に行った。公園のなかはすごく静かで、池や、色彩が素敵な屋根の通路？もあって、雰囲気が好きだった。公園の売店で、アイスを買った。とってもおいしかった。中山公園を出て、お昼ごはんをたべようということになり、お店に入った。そこで北京に来て初めて北京ダックを食べた。とってもおいしかった。なにかの手違いでにらまんが5せいろくらい来たときは、ほんとに爆笑した。屋台で食べたことを後悔するくらい大量のにらまんを目の前にして、もう笑うしかなかった。にらまんが来たときくらいからなにもかもおもしろくなってきて、わたしはずっと笑っていて、なみだがでてきた。私がわらいなきしている間に、やすさん、ちゃんさん、かなふさん、ありりんさんはびっくりするくらいいっぱいにらまんを消費していて、ほんとにありがたかったし、先輩のたべっぷりに尊敬した。ちゃんさんが飽きたといって、まんの部分は食わず、にらまんのにらだけを食べだしたときは、ほんとに爆笑した。そのあと、メニューの漢字が読めなかったけど、ジュースを買った。わたしのジュースはみどりいろをしていて、最後までなに味かわからなかった。そのあと少し歩いて、お買いものストリートに行った。活気に溢れていて、なんか混沌としていて、すごく好きだったし、建物もかっこよくて大満足だった。わたしはちゃんさんに教えてもらって、生まれてはじめてねぎりを体験した。38元だったポーチを30元にしてもらった。お店のおばちゃんがとっても優しく、安くしてくれて嬉しかった。ちゃんさんありがとうございます。お買いものらしいお買いものはしていないけど、とっても楽しかった。そのあと、夜市にも出かけた。素敵なポストカードが売っているお店が大好きだった。さーちゃさんとおそろいのものも買えて大満足だった。夜市もとっても楽しかった。お昼ごはんを食べすぎたにもかかわらず、やっぱりちょっとおなかがすきましたねーとさーちゃさんと話していたら、いけちゅうさんがコンビニでビタミン源として購入したみかんをくれて、すごくありがたかった。いけちゅうさんありがとうございます。この日のばんごはんは、ハリボとみかんで過ごした。いろんなことがあったけど、やっぱりこの日、いちばん印象にのこっていること（もの）は、にらまんです。この日も一日楽しかったです。

9月3日 アフター@万里の長城 担当:とよしー

自分たちはなめていた。7時35分（列車出発20分前）。既に北京北駅の長城号を待つ列は長く延びていた。いざゲートが開くと我先にと中国人が列車めがけて走っていく。私たちが着くころにはもう座席がなくなっていた。「もう疲れたし、優雅にゆっくり行こうぜ」という当初の構想は崩れ去った。とは言っても、万里の長城の中の名所“八達嶺”にはあつという間に着いた。八達嶺の頂上にはロープウェイを使って登って行った。降りた先は絶景だった。雄大な山々に石堤の城壁が一面にそびえたっている。ここにこんな城壁を築いた先人たちは偉大だ。帰りはバスで市街に戻る。そのバスには日本人旅行者の豊田さんが乗っていた。そのまま一緒にご飯に食べに行った。皆で囲む昼食は笑いが絶えなかった。食後は全身マッサージ。ずいぶん疲れがとれた。これからは空港泊。私たちはモンゴルEx.に思いを馳せながら北京を去って行った。



9月4日 帰国 担当：やす

アフター旅行も終了し、ついに日本へ帰国する日が来た。北京首都国際空港で思い出話に耽りながらカードゲームをして一夜を明かした。思い返せば長いようであつという間に過ぎ去った時間だった。各々がプログラムを懐かしがっていた。広い草原でサッカーをしたり、初めての乗馬を体験したり、肩を組んで歌いながら歩いたシャワーの帰り道、キャンプファイヤー、ホームステイ、さよならパーティ。。全てが輝かしい思い出に変わっていた。そんなことを考えていると、すぐに夜明けがやってきた。

そろそろ日本人メンバーとも「さよなら」をする時間が近づいて来た。各自荷物をまとめ、出発ゲートへと向かう。これでモンゴル Ex. 2013 も終わる。とその時は思っていたのだが、なかなかスムーズにスケジュールが進まないのがこの Ex. であった。なんと台風が日本列島を襲撃。私達が向かう大阪の天気は大荒れ。現時点で飛行機が着陸できないとのことである。その情報をトランジットのために立ち寄った青島空港で聞かされる。仕方なくしばらく待機をすることになった私達は少し遅い昼食を取ることにした。しかし、この選択がミスであった。私達が食事をしている間に、他の航空会社による振替便の手続がなされていたのだ。そんな事など全く知らずに私達がゲートへ進むと「手続ができていないため搭乗できない」と言い渡された。どうすれば良いか途方に暮れていると、同じ状況に置かれ戸惑う 3 人の中国人がいた。彼らも何らかの理由で振替手続ができなかったようだ。すると、あまり状況を理解できていない私達に対して、その 3 人の中国人が日本語で状況を説明してくれた。なんと彼らは 3 人とも日本語が堪能であったのだ。彼らの温かい気遣いにより、私達は状況を理解することができ、本来の便がまだ欠航になったわけではなく、天候が回復するまで待機状態になっていることを知った。さらに当日中に出発する見込みがあるということも分かり、ホッとした。

しばらく待機した後、午後 5 時頃に出発の知らせを受け、ようやく日本に向けて中国を後にした。私達以外の搭乗者は振替便にて出発したため、機内には私達日本人が 4 人と一緒に待機していた中国人 3 人の計 7 人のみ。広々とした機内にちょっとした贅沢さを感じると同時に、帰国ができる安心感と親切な対応をしてくれた 3 人の中国人への感謝で心は満たされていた。

午後 8 時過ぎ。関西国際空港に到着し、これにて本当にモンゴル Ex. 2013 は終了した。

フリーテーマエッセイ

1. 川崎 康博
2. 山内 菜摘
3. 久保 さゆり
4. 中村 有沙
5. 豊嶋 弘樹
6. 飼谷 真里
7. 池田 忠
8. 神田 桃子
9. 古家 佳奈
10. 佐々木 充

「モンゴル人と日本人」

川崎 康博

ウランバートル市内で日本とモンゴルの繋がりを見つけました。道路の真ん中に建てられた日本とモンゴルの国旗が描かれた石碑。それは大きな橋の建設に日本が援助を施した証であった。聞くところによると、現在モンゴルが援助を受けている最大の相手国は日本らしい。最近では、安倍首相によるモンゴル訪問もあり、政治面では戦略的パートナーとして両国の関係を深めていく方針が採られている。市街地を往来する自動車を見ても、明らかに日本車が多い。そのほとんどが中古車のようなだが、ここから日本との貿易関係や外交関係の状況が見てとれる。プログラムのモンゴル人メンバーに話を聞くと、日本に対して非常に好意的に考えている人が多いようだ。日本への留学経験もあるメンバーの1人は「モンゴル人と日本人は容姿もとても似ている。出生後まもない次期に現れる蒙古斑は、人種的にも近い存在であることを示している。(←決して人種差別を主張しているわけではない。)」と口調を強めて話していた。それほどに、日本あるいは日本人のことを「仲間意識」してくれているのだと感じた。また、街並みを見るとどこか日本の面影を感じる。おそらく日本がインフラ建設に協力していることが関係しているのだろう。

そんな街並みと人柄から、私達は安心感を抱いてプログラムを過ごすことができた。ぜひ彼らが日本に来た時には精一杯のおもてなしを提供したいと思ったし、またモンゴルを訪れ、長くより良い互いの関係を築いていきたいと思った。

「3つのかえる」

山内 菜摘

何かを学んだというよりは多くを感じたプログラムだった。

まず、草原での生活は、寝て食べて遊んで、子ども頃のように何も考えずに、ただ、生きていた。日の出を見るために早朝から登山。霧で辺りが見えなからうがお構いなし。果てしなく広がる草原と空の下で食べるごはん。全て手作りで「ちょっと」と伝えたおかわりが大盛りで返ってくるのもご愛嬌。風揚げもキャッチボールもフリスビーも、こんなに思いっきり気持ちよくできたのは久しぶり。のびのび、童心に返った日々だった。

そして、そこで出会った人々の居心地の良さと言ったら、もう出会ったその日から満開だった。そりゃ少しはシャイな人だっているけど、心地よい気遣いがたくさん伝わってきてモン

ゴル国生活での不安を取り除いてくれた。日本語が流暢に伝わる人もいれば、英語も使えない人もいる。でもそういう言葉の壁を感じるのは一瞬で、相手の名前とジェスチャーと笑顔とその場で覚えた単語を使えば、仲良くなるのは簡単だった。互いに仲良くなりたいって気持ちがあったからだと思う。草原で私たち以外には誰もいなくて信頼せざるをえない環境だったというのもあるけど、その最初の壁を自然に壊してくれたのはコーディネーターさんのおかげ。さらに、草原も一緒にホームステイ先としてもお世話になった女の子とそのお母さん。この2人の存在もとても大きい。ちょっとずつでも何度も傍にいた内に、その存在自体が安心できる人になっていた。出会ってからの日数なんて本当に関係ない。照れずに言うなら、愛されてると感じた。ここに帰ってきてもいいんだなと思った。何かが大きく変わったわけではない。でもここに来て、思ったことがある。人が生きるのにごちゃごちゃしたものはいらない。もっと素直に、もっとありのままに生きてくだけでいいんだ。それを感じたのは雄大な自然があって温かな人々がいてくれたから。埋もれてた自分を、これから変えてやる。

「モンゴル Ex.に参加して」

久保 さゆり

私がモンゴル Ex.に参加した理由。それは、おそらく学生の間にはしか行くことができないであろう「モンゴル」。その国の壮大な自然の中で時間にとらわれない生活を送ってみたい。そしてモンゴル人との国際交流を行いたい。という思いからだ。そして、モンゴル Ex.を通じて学んだこと。それは、時間を忘れるほどの生活が現地にはあるということ。たとえ国が違って言葉が通じなくても思いを伝えることができる。ということである。

モンゴルでの生活は、本当に時間やスケジュールにとらわれないものであった。「今日は何も予定がない。何をしよう？」という自由な時間のある日何日かあった。朝ご飯の時間がお昼の時間になっていたり、夜中は遅くまで起きてゲームをしていたり、と本当に時間のことは考えずに生活をしていた。

そして、モンゴル人は日本語・英語の話せる人もいれば、話せない人もいた。その中で意思疎通を図るためになにが大切か考えた。そして、自分から積極的に行動することが大切であるということ学んだ。

今回の Ex.は、日本人メンバーが10人と少なく、メンバー一人ひとりと深く関わることができ、人数が少ない分モンゴル人とも関わる機会が多く国際交流ができた。この Ex.での経験・人と人との繋がりを忘れずにこれからも生活していきたいと思う。

「モンゴルの人たち」

中村 有沙

モンゴル人メンバーは、日本語を学ぶ学生が中心と聞いていたので安心しきっている自分がいた。しかし実際、日本語をほとんど話せないというメンバーもいた。ウランバートル市内から草原に向かうバスの中で、モンゴル人メンバーの子の隣に座った。これは仲良くなれる絶好の機会だと思い、声をかけた。そのとき、日本語はまだ勉強し始めたばかりだと言っていた。そのため日本語と英語、どちらかといえば英語を中心に話していた。しかし上手く会話が続かなかった。自分の英語力とコミュニケーション能力の低さに涙目。

これはどうしようかと思った。私はモンゴル人メンバーと全然仲良くなれないまま帰国することになるのではないかと心配になった。

だがしかし！草原での生活でその不安も一気に吹っ飛んだ。ことばの壁を超えるのは難しかったけど、一緒に踊ったり、遊んでいたりしたら仲良くなれた！笑 モンゴルの人たちは踊ることが大好きなようだ。キャンプファイヤーを草原で何回かした。ジャギさんの車で音楽を爆音でかけて、火を囲むようにしてみんなで踊る。モンゴルはゆったりとした民族音楽のイメージだったが、モンゴルの若者たちが聞いているのはガンガンのヒップホップ系(?)の音楽だった。何もない草原にいたので、そのような音楽を夜中に爆音でかけていても誰の迷惑にもならなかった。これがまた日本では経験できないことだから楽しかった。モンゴルの子たちは、一緒に踊る相手を選んで踊りながら近づいていく。選ばれた人は合わせて一緒に踊るという感じだった。もちろん日本人メンバーとモンゴル人メンバーが踊ることもあった。私もモンゴル人メンバーに踊りながら近づいてこられることもあったので、それに合わせて踊る。これが結構楽しかった。あまり踊るのに慣れてないものだから、どうしたらいいのか困ったけどモンゴル人メンバーに合わせて腰振って腕振って音楽にのっていた。モンゴル人メンバーはみんな踊るのが上手だった。日本人メンバーも慣れないながらも踊り狂った。

また、モンゴルの人たちはゲームも好きなようだ。ゲームでモンゴル人メンバーと仲良くなったといっても過言ではない。もちろんゲームというのはコンピューターのゲームではない。日本のゲーム、たけのこニョッキキヤリズム4、くるくるポンなどをして遊んでいた。モンゴルのゲームも紹介してもらった。ことばの壁はあっても、今回したものは簡単なゲームばかりだったので日本人もモンゴル人もともに楽しむことができた。罰ゲームはなかなか過激だったけど。笑 お尻をくっつけて尻文字を書いたり、ポッキーゲームの要領で2人でポテトチップスを食べたり。日本人は驚愕していたけれど、モンゴル人メンバーはノリノリだった。どうやらモンゴルでは普通にあることのように。モンゴルの子とこのことを話していたときに、日本人はシャイって言われた。

そんなに会話を交わさなくても、一緒に踊ったり遊んでいたりとしたら友達になれると思った。それらを通してモンゴル人メンバーとの会話も増えた。踊っていたときもゲームをしていたときも、みんなテンションがぶっ飛んでいたと思う。モンゴルの人(恐らくほかの国もそうだろうけど)とは、ノリで仲良くなれると思う。

だんだん仲良くなって、モンゴルのメンバーから「ありー！」って呼ばれるのが嬉しかった。私はモンゴル人メンバーからアリと呼ばれていた。モンゴル人メンバーから、ポストカードや文化紹介で使った半紙にメッセージを書いてくれたのも嬉しかった。ほかにも、たくさん嬉しいことをしてもらった。モンゴルに大切な人ができた。またいつかモンゴルに帰って、みんなで遊びたいな。モンゴル Ex、素敵な思い出をありがとう ^^ *

「対日と対モンゴル感情のギャップ」

豊嶋 弘樹

「モンゴルに行く」と周りに言う「えっなんで？」と返される。モンゴルを中国やタイ、カンボジアに換えると別の反応が返ってくるだろう。それだけ私たちにとってモンゴルは身近ではない。距離で言うと香港とあまり変わらないのに…。ところが、モンゴルにとっての日本は違う。モンゴルは親日国だ。この差は何か？実際にモンゴルに行くとなんて答えが見えてきた。

① モノ モンゴルには至る所にトヨタや日産などの日本車が走っている。また、電化製品もソニーやパナソニックなどの日本製が多い。そして、町中の橋や道路は日本からの援助によるものが多いらしい。日本はモンゴルの最大援助国。モンゴル人はそのことを感謝してくれているみたい。これが最大の親日の所以であり、モンゴル人が日本をよく認知している理由である。一方で、モンゴルのモノを日本で見かけることはまずない。モンゴルでは製造業がほとんど発達してらず、ほとんど自国で生産しているものがない。街でもモンゴル製の車は見かけないし、スーパーマーケットに並ぶお菓子はほとんどが中国・韓国製あるいは外国資本の企業によるものだ。自国ですらそうなのだから私たちがモンゴルのモノを目にすることは少ない。モンゴル人は日本のモノをよく見る。日本人はモンゴルのモノを見ない。それが最大のギャップの要因だと考える。

② 観光しづらい 観光名所と呼ばれるものが少なく、またそれが点在しているため、まわりづらい。英語もほとんど通じない。ときたら、ツアーに参加するほかない。その上、他のアジアの国に比べ、物価も高い。ただでさえ、モンゴルまでの航空運賃は高いのに、国内でも旅費がかさむとなると旅行代金が非常に高くつく。だから日本人のモンゴル観光は難しいのが現状と言える。

それ故、日本人はモンゴルを遠い国だと感じざるを得ないのだと思う。しかし、今後は大きく変わりそうだ。日本企業のモンゴル進出のニュースも時々聞くようになった。また、モンゴル国内も建設ラッシュ。これから発展していくのが肌で感じられた。そうなれば、近い将来「モンゴルに行く」と言っても「えっなんで？」と返ってくることはなくなるかもしれない。

「モンゴルの風景」

飼谷 真里

現地に行くまで、モンゴルがどんなところなのか想像もできませんでした。実際に行ってみるとほんとに素敵なおとこでした。まず、おうちの屋根がカラフルで、シルバニアファミリーの家みたいで可愛かったです。空が青くて、草原が広がっていて、どこまでも素敵でした。ゲルと、草原と、青い空白い雲。ほんとに風景がきれいな国でした。ウランバートルの風景は、いろいろな国の食べ物屋さんがあったり、韓国語の看板があったりたくさんの国の文化が混ざっているのが見受けられました。町に走っている車は、すなほこりまみれで、車本来の色がよくわかりませんでした。タクシーにたくさんのりましたが、日本車が多くて、なんだか嬉しくなりました。日本が協力して作られた太陽の橋と呼ばれている橋もあって、誇らしくなりました。市内は、あまり整備されている感じではなかったけど、モンゴルはまだまだ土地もたくさんあるし、色んな国の文化を取り入れている国でもあるので、もっともっと発展していくんじゃないかなと思いました。

～渋滞～

ウランバートル市内で象徴的なのは慢性的な渋滞だ。市民の足といえばマイカーやバス、ミニバス、タクシー(白タクの割合が圧倒的)といった車が主流で、この渋滞の原因は地下鉄などの近距離公共交通機関はない事、首都の人口増加やインフラの整備が追い付いていないということが挙げられる。

市内には日本の ODA と技術を投入し作られた、“太陽橋”と呼ばれる高架があるが、これは氷山の一角に過ぎず、街を車で移動すると、荒れたアスファルトや下水処理がうまくいってないためか水没している車道も散見された。一方で新たに工事中の道路や建設中の高層ビルが散見され、この国が今まさに経済成長の真っ只中にあることを実感させられる。

～外資～

モンゴル市内を走る自家用車は日本製が圧倒的に多いまたバスやトラックでは韓国製が多く、ベンツなどの欧州車も散見された。スーパーに足を踏み入れると、中国製や韓国製の日用品や輸入食材も多く感じられ、アメリカや欧州などのブランドも目にした。ホームステイ先においてもテレビを除き、洗濯機・冷蔵庫などをはじめとした家電製品は圧倒的に韓国製が多かった。また夜に行われていたライブのスポンサーはサムスンでライブの間にスマホの宣伝を行ったり、韓国資本の総合ショッピングモールが街にあったり、韓国資本が浸透していることをうかがい知れた。

以上のように、日本も当然のことながら外資が市民の生活に浸透しているが、一方でモンゴル経済は豊富な資源を背景に経済発展をしているため、モンゴル自前の産業を育てていくというのが課題だと考える。

～治安悪化～

ウランバートル滞在中モンゴル人メンバーから何度もスリに注意してくれと気遣ってくれた。その背景には経済急成長に伴う格差の拡大や中国人移民や労働者の増加があるということを知られた。

以上の課題については当然のことながらモンゴルの人々も理解していると思う。

この国に来て、モンゴル人メンバーと共に生活するうえでモンゴル人の倫理観や道徳観、街の遊園地などでとても元気良く盛り上がっている若い人々の活気やモンゴル人同士の交友関係の広さから感じた深い友情、モンゴル人の人々の強さや優しさや寛容さなど多くを学び、感じた。以上の課題についてはモンゴルの人々が自らのスタイルで解決していくと思う。また、将来、日本人として日本の企業人になる僕にとっては海外でとりわけ、友情の、愛情

の国であるモンゴルでビジネスをする機会があれば、積極的に関わりたいと思ったし、この国の人々に尽くし、この国に貢献し、共に発展できる持続可能な関わり方をしたいと心から思った。

また必ずモンゴルに行き、人々の愛情や友情に触れ、発展したモンゴルを目にしたい。

「幸せ」

神田 桃子

モンゴルの大草原で大空を見上げて、たくさん吸収して大きくなりたいと思い、この Ex.に参加しました。実際に大きくなれたのかは分かりません。何が得られたのかと聞かれたら、正直分かりません。

ただ思ったことは、日本では感じることのなかった幸せがモンゴルにはあったということです。今まではおいしいご飯を食べることができて、ふかふかのベッドで寝ることができたから、それで幸せだと思っていました。けれどモンゴルの草原で一週間を過ごし、ちがう幸せもあるんだと感ずることができました。豪華な食事なんていない。トイレもベッドもない。ただ澄んだ空気の中で過ごしたあの時間が、私にとって何ものにも変えられない大切なものになりました。大自然に囲まれて生活できることがどれほど幸せなことだったのか、今になって身に染みて感じています。

この Ex.中、たくさんの優しさに触れました。最初から最後まで多くの人々に守られて、だからこそ楽しむことができ無事に帰ってくることができました。支えてくださったすべての方々に感謝を込めて。素敵な時間を、本当にありがとうございました。

モンゴル Ex.を終えて、ウランバートルでの生活もちろん良い経験だったが、ただっ広い草原でみんなとゆったり過ごした7日間がやっぱり 1 番忘れられない思い出。風を飛ばしたり丘のぼったり踊ったり、特別に何かをしたわけではないけれど、ゆっくり流れる時間の中で、草原での生活を見て聞いて感じて、しっかり体験することができた。また、時間が十分にあったからこそ、モンゴル人メンバーのみんなとも時間をかけてゆっくり仲良くなれたし、一人一人としっかり交流することができたと思う。

モンゴル人は日本に対して友好的で、似ている点が多いと聞いていたが、実際に会って話をすると、「大丈夫?」「寒くない?」と何度も聞いてくれて、相手に気を遣うところや優しくて思いやりのあるところは本当に日本と似ていると感じた。個人的に印象に残っているのは、草原初日か2日目にフランさんから言われた「言いたいことはちゃんと行ってね。モンゴル人の子と日本人の子にもっと仲良くなって欲しいの」という言葉。日本人は自分の意見をはっきり言わない、とよく指摘されるけれど、フランさんの言い方は本当にモンゴル人と日本人の交流がしっかりできるよう気遣ってくれているものだったので、感動した。オシンやウヌシカは初め自分からガンガン話し掛けてくる感じではなかったので、少しずつ話したりスキンシップを取るようにして、心を開いていってくれるのを感じられたのが嬉しかった。草原での生活やモンゴル人の良いところに気付く一方で、モンゴルはまだまだ発展途中で課題がたくさんあるということも感じた。ウランバートルでは、建設中の道路や岡山では見られないような近代的な高層ビルをたくさん見たが、社会主義時代のものと比べて、急いで建てているせいか基礎などがしっかりしていないような物も増えているらしい。法律もしっかり機能していないせいか、横断歩道とか交通規則を守らない人も多い。また、前入りの日にフィガの家で体験した水シャワーもウランバートルではよくあることで、そういった日はポットでお湯をつくってお風呂に入るらしい。更に、ジャギさんによるとお金儲けを目的とした大学も多く、学生の就職率があまり良くないという問題もあるという。自然豊かなモンゴル。勉強熱心で心温かいモンゴルのみんな。実際に訪れてみて、人も国も本当に気持ち良くて、日本を好いてくれている人が多いことは本当に嬉しかったし、心から素敵な国だと思った。だからこそ、みんなが安心して暮らせるような国にこれから成長して行って欲しい。モンゴル人、日本人メンバー含め、モンゴル Ex.でみんなと出会えて、一緒にモンゴルでかおすことも楽しいことも経験できて、本当に良かった。学生最後の夏休みに、最高の思い出ができた。みんなありがとう!! ビーチャンヘルテ~!

「感想と宣伝」

佐々木 充

流れ星が見たい！その一心で参加を決意したこのモンゴル **Ex.** いやー、見れました。めっちゃ。すごすぎて願い事すんのなんか完璧に忘れてたけど。シャワー4日浴びてないのなんか全く気にせず、くっさい体で超ロマンチックな星空を見上げたのは一生の思い出です。最高でしたモンゴルの草原。

てなわけで1人でも多くの後輩にこの **Ex.**に参加してほしいです。特に悩みがある人やスレてるやつ。大自然は全てを浄化してくれます。まあ日本帰国してからの現実には心はやられそうになりますが。バイトの時とか。でもこれを逃すとモンゴルなんてもう二度と行くことありませんよ！多分！皆さんぜひ行ってみてください！

必要な持ち物リスト

パスポート(コピーも)	カミソリ・髭そり	おもちゃ(凧、ラジコンなど)
海外保険証	つめ切り	緊急連絡先の控え
米ドル現金(700\$)	防寒具	スマートフォン
財布、クレジットカード	暑さ対策用衣類	カメラ・チェキ
航空券	帽子	充電器
キャリーケース or バックパック	下着	変圧器
ミニバッグ	タオル	タコ足ケーブル
くし・ブラシ	雨具	クロックス
石鹸・シャンプー	ホームステイ先へのお土産	虫よけ
歯ブラシ	ティッシュ	ウェットティッシュ
化粧水・乳液	スイパのお菓子、酒	サングラス
その他肌ケア用品	薬	暇つぶしのゲーム、本
ドライヤー	調味料	地球の歩き方

持ち物リストにはなかったけど、役に立ったもの

- ・ファブリーズ
- ・体ふきシート
- ・トラベルピロー
- ・手ピカジェル

持ち物リストにあったけど、使わなかったもの

- ・変圧器
→ビフォー・アフターの行き先にもよるがモンゴルでは使わなかった。
- 海外でも使えるドライヤーを用意しておくべき。
- ・虫よけ

現地で調達できるもの

- ・トイレトペーパーやティッシュ
- ・お菓子

次世代へのアドバイス

・キャリーケースについて

キャリーケースだと、階段をのぼったりおりたりするときに不便なのでバックパックのほうが良いかも。モンゴルではそんなに困らなかったが、ビフォーやアフターで北京にいたときに駅にエレベーターやエスカレーターがないことがあったため、キャリーケースを持って階段をあがるのは大変だった。

・両替について

両替するなら、日本より現地で。空港などはレートが悪いので、ATM でキャッシングがおすすめ。現金は最小限で。

みんなモンゴルで1万円ぶん両替していたが、ほとんどの人がそれだけでは足りなかったと思う。大きなデパートには両替してもらえるところがあった。

1万5千〜2万円両替すればいいかも。

・洗濯について

草原にいるときは、できないと思ったほうがいい。

靴下を洗おうとしたら、モンゴル人メンバーから注意された。草原では水は貴重なので、洗濯には使わないでほしいとのこと。暮らしていると1日で靴下が真っ黒になることもあるので、汚れてもいい・捨ててもいい靴下を持っていくべき。

ウランバートルでのホームステイのときに、ほとんどのホームステイ先で洗濯をさせてもらえた。洗剤はいらないかも。

・お酒について

お酒弱いけど無理やり飲まされるのかと心配するメンバーもいたが、無理やり飲まされることはなかった。無理だと言えばきちんと配慮してくれる。心配しなくてよい。

飲める人にも、無謀な飲み方をさせられることはなかった。

・空気が乾燥している

いくらリップを塗ってもくちびるが荒れる人もいた。

・体調をくずしたり、けがをしたりしたら

すぐにオーガナイザーの人に相談する。薬を用意してくれる。お腹をこわしたメンバーも、薬を飲むとすぐに回復したのでモンゴルの薬を飲んでも問題はない。

・靴について

女子の場合、靴はスニーカー・さようならパーティー用の靴(サンダル or パンプス)・クロックスがあれば安心。クロックス必須。ただ、スニーカーを持っていかにクロックスのみで草原をすごすのは無謀だった。草原にある丘は大きな石・岩の上を歩くこともあったので、スニーカーは必須。

・ドライヤーについて

日本で使うドライヤーを使おうとすると、ショートしたので危険。
海外でも使えるドライヤーを用意すべき。

・Wi-Fi について

ホームステイ先による。Wi-Fi がつながるところもあるが、つながらなかったところのほうが多かったように思える。

・物を受け取るとき

モンゴルでは、左手で物を受け取ると相手に対してとても失礼になる。右手で受け取るのももちろん良いが、両手で受け取るとより相手を敬っていることになって良いとのこと。草原で食事を受け取るときなど気を付けた方が良い。(日別活動報告また、

・ホームステイ先での注意

ホームステイ先で用意してもらったものは、ありがたく使わせてもらう。
過去のモンゴル Ex.でホームステイ先の人が用意してくれていた服(パジャマ)を日本人が着ずに寝てしまい、ホームステイ先の人気分を悪くしてしまったことがあったようだ。

モンゴルで食べたもの

＊伝統料理編＊

【ボーズ】

肉まんのようなもの。
ピクルスが添えられていた。
ホームステイのときに食べた人が
何人かいた。



【ホーショル】

ボーズに並ぶモンゴルの伝統料理。2日
目のお昼に食べた。中に肉がつまってい
る。

＊草原で食べたもの＊

肉入りスープに
ペンネが入ったもの。





肉じゃがに
ペンネが入ったもの。

モンゴルでも
カレー食べた ^^



野菜も肉もじゃがいもも入った
チャーハン



チキン+サラダ+みそ汁
モンゴル人メンバーの
学生さんが作ってくれた ^^





草原で最後の夜に食べた
とり鍋。



ラーメン



朝ごはん
安定のパン＋ソーセージ＋
目玉焼き＋紅茶
ときどきサラダ。

日本料理のレストランで働いていたシェフが主に私たちのご飯を用意してくれていたのので、日本人の口にあうようなものを作ってくれました。どれも美味しかったです。

編集後記

モンゴル Ex. B チームの報告書を読んでいただきありがとうございます。

いかがでしたか？モンゴルの良いところが、少しでも多く伝われば
幸いに思います。青い空に広がる草原、都市化の進むウランバートルの街
満天の星空、モンゴルの人々のあたたかさどれも忘れられないものとなりました。

今回、報告書を作成するにあたって協力してくださった皆さま
本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

報告書係 中村有沙

モンゴル Ex. 報告書（一般公開用）

編集責任者 中村有沙

編集者 佐々木充

発行日 2013 年 9 月 21 日

発行元 International Student Association （日本国際学生協会）

